

兵庫県佐用町 1人1台端末の利活用に係る計画

1. ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

佐用町では、児童生徒の可能性を最大限に引き出すため、1人1台端末をはじめとする ICT 環境の活用を重視しています。これは文部科学省の学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育の構築」に基づくものです。この答申が示す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現には、ハードウェア・ソフトウェアを含む ICT 環境の持続的な安定と計画的な更新が欠かせません。

本町では「夢ある教育」を教育施策の基本理念として掲げ、ICT を学習の基盤とした教育環境を整えています。タブレット端末を子どもたちにとっての新しい学習の文房具として活用し、学習支援ソフトや電子黒板と連携させることで、児童生徒一人ひとりが学びを深められる教育活動を進めています。また、情報活用能力の育成を通じて、社会の変化に柔軟に対応できる「生きる力」を養うことを目指しています。

2. GIGA 第1期の総括

(1) 進捗状況

佐用町では、令和2年度末までに GIGA スクール構想の実現に向けた校内高速ネットワークの整備を完了しました。その後、1人1台端末の配布や、教職員へのタブレット導入が進められました。令和3年度には、必要な帯域を確保するためインターネット回線（ブレイクアウト回線）の整備を実施し、令和4年度には教育情報基盤の整備としてネットワークの統合を行いました。合わせて、パブリッククラウド型の統合型校務支援ソフトや Microsoft によるグループウェア、コミュニケーションツールの統合的運用が可能になりました。

また、教職員向けには ICT 活用研修を、夏季休業中に定期的に開催する形へと発展させ、学校内研修でも ICT 活用をテーマに取り上げています。こうした取り組みにより、学校教育の情報化への意識が深まり、具体的な実践が進んでいます。

(2) 課題

ICT 環境が整備される一方で、いくつかの課題も明らかになっています。

ア. 学校間や教職員間での ICT 活用状況や能力に差があり、それぞれのスキルに応じた研修や ICT 活用リーダーの育成が求められています。また、端末やシステムが増えることで、機器の操作やアプリの活用方法に課題が生じており、教職員がスムーズに ICT を活用できる環境整備が必要です。

イ. タブレット機器や電子黒板の不具合が発生しており、職員がトラブル対応に追われています。そのため、周辺機器を含めた更新が課題として浮上しています。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGA 第1期では、1人1台端末の日常的な活用をすすめた結果、学習面において必要不可欠なものになっています。

そのような中、令和2年度に整備した端末は、経年劣化が進み、物理的な故障に加え、バッテリーの消耗など、活用に支障が出る場面が増えつつあります。児童生徒の学びを止めないためにも、1人1台端末

の着実かつ円滑な更新を進めます。

（１） １人１台端末の積極的な活用

今後は、ICT 支援員の導入を図るとともに、各校の教職員が ICT 活用の目的を理解し、ICT 活用指導力が向上するよう、デジタル教科書や授業支援ソフトなど ICT 活用に関してスキル向上をさらに支援していきます。

授業での端末活用に加え、すきま時間を活用した端末の活用、家庭への持ち帰りを実施し、校内及び家庭学習での活用を推進します。

（２）個別最適・協働的な学びの充実

学習プロセスにおいて ICT を活用する場面は多様であり、児童生徒が自らの考えで、目的や場面に合わせて ICT を使い分けて効果的に活用し、課題を発見・解決する力を育成します。

また、教職員と児童生徒、児童生徒同士がやりとりする場面で ICT を積極的に活用し、協働的な学びを充実します。

さらに、児童生徒一人ひとりの特性にあった方法で学習を進めるため、A I 型デジタルドリルの活用及び各自の学習履歴をはじめとする教育データの利活用についても検討を行います。

（３）学びの保障

GIGA 第１期に引き続き、第２期においても日常の授業で端末をより効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や特別支援など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面で ICT を活用していきます。